

失語症者に対しドライブシュミレータを訓練として用いた1例

桔梗ヶ原病院 リハビリテーション部

須田広樹

失語症者に対しドライブシュミレーター（以下、DS）による訓練が有効であった1例を報告する。症例は、DSを繰り返し実施した際に、言語処理による負荷がかかる場面において運転技能の低下を認め、言語への負荷により全般性注意の低下及び処理速度の低下に起因するものと考えられた。その後、実車評価及び運転再開後の条件の設定により運転の再開は可能となった。